

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2026年度 1 期、2026年度 2 期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	研究指導 英語学・英語教育学		

授業担当教員/Faculty	佐取 美紀
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>①博士後期課程での研究を深め、英語教育学に関する研究を円滑に実施できるように各期 15 回の授業（リサーチワーク）を行う。研究課題ごとに、研究テーマに則した研究計画を立て、先行研究の収集・分析を行い、研究仮説の設定、研究方法の決定、データ収集と分析、結果と考察、課題の整理などを適切に行えるように指導する。毎回の授業終了時に課題を出し、課題の報告を基に次回の授業を進めていく。これらの課題の結果を報告書にまとめて発表するように指導する。②「論文指導」では、この報告書を精緻化して博士論文にまとめていく。</p> <p>③両学期とも第14回の授業はオンライン（Zoomでの同時双方向型）で行う。受講登録をした受講生には大学の電子メールで授業開始前にZoomのURLを連絡する。</p> <p>④生成AIの使用については、別途指示する。</p>
--	---

授業計画 / Schedule	<p>(1 期)</p> <p>第 1 回 授業の目標と概要 第 2 回 研究計画 第 3 回 先行研究の整理 第 4 回 先行研究の検討 第 5 回 研究仮説の設定 第 6 回 研究方法の検討 第 7 回 データ収集（予備研究） 第 8 回 データ収集（本研究） 第 9 回 データ分析 第 10 回 結果の整理 第 11 回 考察と課題 第 12 回 引用文献の整理 第 13 回 研究報告書の作成 第 14 回 研究報告書の検討 第 15 回 研究発表と課題の整理</p> <p>(2 期)</p> <p>第 1 回 授業の目標と概要 第 2 回 研究計画 第 3 回 先行研究の整理 第 4 回 先行研究の検討 第 5 回 研究仮説の設定 第 6 回 研究方法の検討 第 7 回 データ収集（予備研究） 第 8 回 データ収集（本研究） 第 9 回 データ分析 第 10 回 結果の整理 第 11 回 考察と課題 第 12 回 引用文献の整理 第 13 回 研究報告書の作成 第 14 回 研究報告書の検討 第 15 回 研究発表と課題の整理</p>
-----------------	---

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	教科書は用いない。参考書は適宜紹介する。
---	----------------------

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2026年度 1期、2026年度 2期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	研究指導 日本語学・日本語教育学		

授業担当教員/Faculty	早津 恵美子
----------------	--------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>博士後期課程 1 年次の「特殊講義Ⅰ、Ⅱ」に続く科目で、研究テーマ、研究課題、先行研究の整理などを踏まえて、実際に博士論文の中核となる、実行可能な調査が行えるように、履修生と議論しながら、調査協力者に負担をかけない調査方法を決定し、実際に調査を行う直前まで完了しているため、実際に言語データを収集し、収集できたデータを質的分析、量的分析にかけるところまで行くことを目標とする。履修生は収集できたデータの整理、分析、解釈を事前に準備して授業に出る。</p> <p>●本授業では、担当教員が許可した場合に限り、生成AIの利用を許可する。具体的な使用の範囲については授業中に適宜説明する。</p>
--	--

授業計画 / Schedule	<p>1) 研究テーマ、研究課題の再確認</p> <p>2) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(1)</p> <p>3) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(2)</p> <p>4) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(3)</p> <p>5) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(4)</p> <p>6) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(5)</p> <p>7) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(6)</p> <p>8) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(7)</p> <p>9) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(8)</p> <p>10) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(9)</p> <p>11) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(10)</p> <p>12) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(11)</p> <p>13) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(12)</p> <p>14) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(13) (online授業)</p> <p>15) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(14)</p> <p>16) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(15)</p> <p>17) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(16)</p> <p>18) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(17)</p> <p>19) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(18)</p> <p>20) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(19)</p> <p>21) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(20)</p> <p>22) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(21)</p> <p>23) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(22)</p> <p>24) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(23)</p> <p>25) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(24)</p> <p>26) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(25)</p> <p>27) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(26)</p> <p>28) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(27)</p> <p>29) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(28) (online授業)</p> <p>30) 収集した調査・言語データの整理、分析、解釈に関する議論(29)</p>
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	博士論文の進捗状況と内容の深化・進化の程度
------------------------------	-----------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	必要に応じて指示する。
---	-------------

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2026年度1期、2026年度2期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	研究指導 日本語学・日本語教育学		
授業担当教員/Faculty	エリス 俊子		
授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	研究テーマ、研究課題、先行研究の整理などを踏まえて、博士論文の執筆に取り組むための具体的な指導を行う。履修生は与えられた課題に対して期日までに執筆を進め、授業ではそのフィードバックを行う。		
授業計画 / Schedule	第1回 進捗状況報告 第2回 進捗状況へのフィードバック 第3回 課題整理(1) 第4回 課題整理(2) 第5回 課題整理(3) 第6回 構想に関するディスカッション(1) 第7回 構想に関するディスカッション(2) 第8回 構想に関するディスカッション(3) 第9回 調査に関する報告(1) 第10回 調査に関する報告(2) 第11回 調査に関する報告(3) 第12回 課題整理(4) 第13回 課題整理(5) 第14回 課題整理(6) (オンライン) 第15回 中間まとめ 第16回 論文構成に関するディスカッション(1) 第17回 論文構成に関するディスカッション(2) 第18回 論文構成に関するディスカッション(3) 第19回 課題整理(7) 第20回 課題整理(8) 第21回 課題整理(9) 第22回 データ整理(1) 第23回 データ整理(2) 第24回 データ整理(3) 第25回 全体構想の見直し(1) 第26回 全体構想の見直し(2) 第27回 全体構想の見直し(3) 第28回 論文構成に関するディスカッション(4) 第29回 論文構成に関するディスカッション(5) (オンライン) 第30回 論文構成に関するディスカッション(6)		
成績評価基準 / Assessment criteria	各回授業での報告、ディスカッション、レポートの総合評価		
教科書(参考書) / Textbook/Reference Materials	特になし		

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2026年度 1 期、2026年度 2 期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	研究指導 日本語学・日本語教育学		
授業担当教員/Faculty	近藤 行人		
授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	研究テーマ、研究課題、先行研究の整理などを踏まえて、実際に博士論文の中核となる、実行可能な調査が行えるように、履修生と議論しながら、調査方法を決定し、実際に調査の実施を目標とする。履修生は先行研究の整理、実践の計画、データ収集計画の整理を準備して授業に出る。		
授業計画 / Schedule	1) 研究テーマ、研究課題の確認 2) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(1) 3) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(2) 4) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(3) 5) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(4) 6) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(5) 7) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(6) 8) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(7) 9) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(8) 10) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(9) 11) 先行研究の整理・調査計画に関する議論(10) 12) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(1) 13) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(2) 14) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(3) 15) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(4) 16) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(5) 17) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(6) 18) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(7) 19) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(8) 20) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(9) 21) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(10) 23) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(11) 24) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(12) 25) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(13) 26) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(14) 27) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(15) 28) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(16) 29) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(17) 30) 収集した調査データの整理、分析、解釈に関する議論(18)		
成績評価基準 / Assessment criteria	博士論文の進捗状況と内容の深化・進化の程度		
教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	特に無し		

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2026年度1期、2026年度2期
授業区分	週間授業	合併講義等	なし
授業名 / Subject	研究指導グローバルコミュニケーション		

授業担当教員/Faculty	大岩 昌子
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>博士後期課程では、前期課程での研究内容をいっそう深め、特に、言語音声に関する研究を円滑に実施できるように各期15回のリサーチワークを行う。まずは、受講生が設定した研究課題ごとに研究計画を立て、特に最新の先行研究の収集・分析を行う。その後、研究仮説と研究方法を決定、さらに、データ収集と結果分析を進めていき、その考察が適切に行えるよう指導する。毎回の授業終了時にだす課題をもとに、次回の授業を進める方法をとる。課題の結果は報告書の形にまとめ、授業内あるいは外部でも積極的に発表してもらう。発表に対するフィードバックを盛り込むことで報告書をさらに精緻化し、博士論文の執筆につなげていく。</p> <p>両学期とも、第14回のみ、ZOOMによる双方向講義となる。受講登録をした受講生には大学の電子メールで授業開始前にを連絡する。</p>
--	--

授業計画 / Schedule	<p>(1期)</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 研究計画の立て方 第3回 音声習得に関する先行研究の整理 第4回 音声習得に関する先行研究の検討 第5回 研究仮説の設定の仕方 第6回 研究方法の検討 第7回 データ収集の方法 第8回 実際のデータ収集 第9回 データの統計分析方法 第10回 結果と分析 第11回 考察と課題 第12回 引用文献の整理 第13回 研究報告書の検討 第14回 研究報告書の作成 第15回 研究発表と課題の検討</p> <p>(2期)</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 研究計画の立て方 第3回 音声習得に関する先行研究の整理 第4回 音声習得に関する先行研究の検討 第5回 研究仮説の設定の仕方 第6回 研究方法の検討 第7回 データ収集の方法 第8回 実際のデータ収集 第9回 データの統計分析方法 第10回 結果と分析 第11回 考察と課題 第12回 引用文献の整理 第13回 研究報告書の検討 第14回 研究報告書の作成 第15回 研究発表と課題の検討</p> <p>なお、本授業での生成AIの使用は、担当者によって決められた範囲内での使用を可とする。</p>
-----------------	---

成績評価基準 / Assessment criteria	<p>授業中の取り組み、課題への対応、レポートの成績を総合的に判断して評価する。</p> <p>なお、本授業での生成AIの使用は、担当者によって決められた範囲内での使用を可とする。</p>
------------------------------	--

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	主に、最新の論文を扱う。
---	--------------

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2026年度1期、2026年度2期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	研究指導グローバルコミュニケーション		
授業担当教員/Faculty	鈴木 茂		
授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>学術研究の出発点は自分の問題関心に立脚した「問い」であると言われる。論文作成のテクニックは多くのガイドブックが扱っているが、「問い」の立て方は一朝一夕には行かない。</p> <p>【1期】 トーマス・マラニー、クリストファー・レア『リサーチのはじめかた』（筑摩書房、2023年）</p> <p>【2期】 ウンベルト・エコ『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』谷口勇訳、而立書房、1991年（原著、1985年） 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年。</p> <p>生成AIの利用については、随時指示します。</p>		
授業計画 / Schedule	<p>トーマス・マラニー、クリストファー・レア『リサーチのはじめかた』筑摩書房、2023年。</p> <p>1期 第1回 授業の説明 第2回 第1章 問いとは（1） 第3回 問いとは（2） 第4回 第2章 きみの問題は？（1） 第5回 きみの問題は？（2） 第6回 第3章 成功するプロジェクトを設計する（1） 第7回 成功するプロジェクトを設計する（2） 第8回 成功するプロジェクトを設計する（3） 第9回 第4章 きみの<問題集団>の見つけかた（1） 第10回 きみの<問題集団>の見つけかた（2） 第11回 第5章 <分野>の歩きかた（1） 第12回 <分野>の歩きかた（2） 第13回 第6回 はじめかた 第14回 討論（オンライン） 論文にいかにか活かすか 第15回 まとめ</p> <p>2期 第1回 エコ『論文作法』第1章 卒業（博士）論文とは何か。何の役に立つのか。 第2回 第II章 テーマの選び方 第3回 第III章 資料調査 第4回 第IV章 作業計画とカード整理 第5回 第V章 原稿作成 第6回 第VI回 決定稿の作成 第VII回 むすび 第7回 坂根『創造の方法学』1 方法論への道 第8回 2 問題をどうたてるか 第9回 3 理論と経験をつなぐ 第10回 4 科学的説明とは何か 第11回 5 数量的研究の方法 第12回 6 全体像をどうつかむか 第13回 7 現場体験の生かし方 第14回 8 参与観察の方法（オンライン） 第15回 9 ジャーナリズムに学ぶ 10方 法論の一般理論へ</p>		
成績評価基準 / Assessment criteria	毎回の授業での報告と討論をもとに評価します。		
教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	<p>トーマス・マラニー、クリストファー・レア『リサーチのはじめかた』筑摩書房、2023年。 ウンベルト・エコ『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』谷口勇訳、而立書房、1991年（原著、1985年）。 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年。</p>		